

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区船橋6-25-1-1F
園名	世田谷区立希望丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然を通して『命のつながり』『循環と再生』を体感する。

<テーマの設定理由>

自然環境の充実に取り組み、今年度で7年目となる。子ども達が身近な自然に親しみ、植物や生き物の生態に興味を持ち、知りたいという気持ちが高まっている中で、一歩進んで命のつながりに気付く経験ができるような環境作りをしたいと考えたから。

2. 活動スケジュール

- ・新しいコンポストの設定と子ども達と共に堆肥作りの体験をする。
- ・のっばらや園庭にある植物にタイムリーに書き替えられる表示を付けたり、のっばらグラム(保護者向けの園の自然についての発信)を目立つようにブラックボードに掲示する。
- ・各クラスのプランターに子ども達と絵を描いたり、色を塗ったりしてオリジナルデザインのプランター制作を行う。
- ・子ども達が隠れたり、くぐったりして探索を楽しめる緑のアーチを作る。
- ・のっばらに夜間の虫採集トラップを設置し、様子を撮影、子ども達と一緒にそれを鑑賞したり、集まった虫を観察する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・コンポストを組み立てて活用できるように設置する。野菜の皮等を用いて堆肥作りを体験できるようなセットし、4歳児の活動に取り入れる。
- ・書き替えられる表示、ブラックボードを活動して、視覚的に興味を引くよう工夫する。
- ・新しい白いプランターに各クラス絵の具で自由に描き、自分たちの育てている植物に愛着を持てるような活動、環境作りを行っていく。
- ・緑のアーチを作るための支柱、植物を用意し、担当が中心となって進めていった。
- ・夜行性トラップ(投光器、虫トラップ、定点カメラ、白い布)を設定。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

プランターや園庭の畑で栽培するものに、その時に合った内容に書き替えられるプレートに植物の名前や今の様子を書き込み、親しみをもって観察したり、世話をするきっかけ作りをしていった。また保護者向けの発信であるのっばらグラムをエントランスの中央にブラックボードに貼って置き、掲示することで関心を持ってもらい、親子の会話にもつなげていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

保育士が表示を書き込んだり、セットする様子を見て、「これは〇〇だよ」「なんかツルが伸びてきた～」と嬉しそうに観察したり、それまでよりも親しみをもって水やりをしていた。「この芽はどんなふうに大きくなるのか」「どんな花が咲くのかな？」と生長する様子にも興味が高まり、のっばらワゴンから図鑑を出してきて、調べようとする姿も見られた。設置したブラックボードの前で最新版ののっばらグラムを親子で眺めながら会話を楽しむ様子も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

無造作に植えられているものよりも、整理されたり、表示等で注意を引き、働きかける方がより関心も高まり、主体的に触れようとしたり、知りたいという思いが刺激されると感じた。ねこのプレートは書き替えられるタイプのものでタイムリーにその時の様子や子ども達に訴えかけたいことを書くことができるので、保育士もその時の様子を意識するようになったし、それらを通して子ども達に何を伝えようかを考えるようになったと思う。のっばらグラムについてもブラックボードに掲示する形になり、定期的に途切れずに発信するためにはどうすればよいかを職員間で話し合いながら進めていけたと思う。